

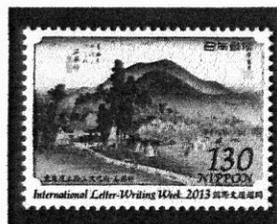
# 東海道五拾参次

橋本 たねひろ

## 44、石薬師（いしやくし）—石薬師寺 伊勢国・三重県鈴鹿市

田んぼ道を歩く天秤棒を担いだ2人の農夫、道の先に瑠璃光院石薬師寺の山門と堂宇があり、その前が東海道、旅人や馬が通ります。

東海道右手に四日市から10.8kmの門前町石薬師宿の家並みが見え、田んぼで農夫が働き、遠景は鈴鹿山脈です。



## 45、庄野—白雨 伊勢国・三重県鈴鹿市



白雨とは夕立のことで、蓑をまとった男と客を乗せた駕籠かきがあわてて坂をかけ上がっていく、蓑をまとった農夫と傘を傾けて足早に下っている人、坂下に家並みが煙って見える、激しい風雨に竹藪が大きく揺れている図で、本シリーズ中「菅原夜乃景」と並んで傑作と言われています。

石薬師から2.7kmの庄野宿は東海道ながらお伊勢参りの経路からはずれた小さく地味な宿場であったので、広重は白雨で演出したのでしょうか。

## 46、亀山—雪晴 伊勢国・三重県亀山市

明け方に雪がやみ、朝日が顔を出す直前、東の空が明るくなる、松の斜面を大名行列が亀山城に黙々と進んでいる、白一色の坂下に亀山宿が見えている図です。庄野から7.9kmの亀山は城下町で、城の多門櫓は現存しています。白い余白を生かした静謐な情景は、欧州の画家に衝撃を与え、印象派誕生の契機となりました。



## 47、関—本陣早立 伊勢国・三重県亀山市



亀山を出立して5.9km、平安時代に開削した鈴鹿峠に設置された鈴鹿の関のことで、絵は宿泊した大名を送り出す本陣の様子を描いたものです。

七ツ立とすると、おそらく3時過ぎのまだ暗闇の中、手前では草鞋（わらじ）のはいった竹馬や提灯を用意し慌ただしく準備する奴達、奥の門内には本陣当主が様子を見守る、門外で大名駕籠の準備であろうか。